

株式会社アイ・エム・ジェイ

東京都目黒区青葉台 3-6-28

代表取締役社長 櫻井 徹

## タブレット端末でのサイトユーザビリティ調査 —画面サイズの違いによるタップのしやすさ、読みやすさを検証—

株式会社アイ・エム・ジェイ(本社:東京都目黒区 代表取締役社長:櫻井 徹 以下、IMJ)は、「タブレット端末でのサイトユーザビリティ調査」を実施いたしました。

調査期間は 2013 年 3 月 8 日～3 月 11 日、有効回答数は 900 名から得られました。

### 調査の狙い

iPad や Kindle に代表されるタブレット端末が急速に普及している一方で、Web サイト側の対応としては、タブレット端末に最適化されたサイトを新たに提供しているケースは現在もそれほど多くなく、すでにある PC やスマートフォン向けのサイトをタブレット端末向けにそのまま表示させているケースが見受けられます。

IMJ では、この現状を踏まえ、タブレット端末のユーザーが PC 向け、スマートフォン向けサイトを閲覧した際に、Web サイト側からは、ユーザビリティ上、どのようなポイントに配慮すべきかを把握するための調査を実施いたしました。

今回の調査ではタブレット端末を画面サイズの異なる 3 つのグループ(7 インチ、7.7～7.9 インチ、9～10.1 インチ)に分け、それぞれ PC やスマートフォン向けのサイトについて使いやすさの印象、文字の読みやすさ、押しやすいボタンサイズなどについてグループごとに調査・比較をしています。

### 調査のトピック

1. 7インチタブレットユーザーの最大 34%はスマートフォンサイトを支持
2. PC サイトを好む理由は「画像が見やすかったから」が約 7 割
3. 7 インチユーザーの 70%以上は縦持ちで Web サイトを閲覧する
4. タブレットユーザーが読みやすいと感じるフォントサイズは 16px
5. 9～10 インチのタブレットユーザーは、縦持ち、横持ちに関係なく拡大しないで文章を読む
6. 7 インチタブレットユーザーはタップミスと拡大してタップする割合が多い
7. タブレットユーザーに最適なボタンサイズは縦横 32px 以上

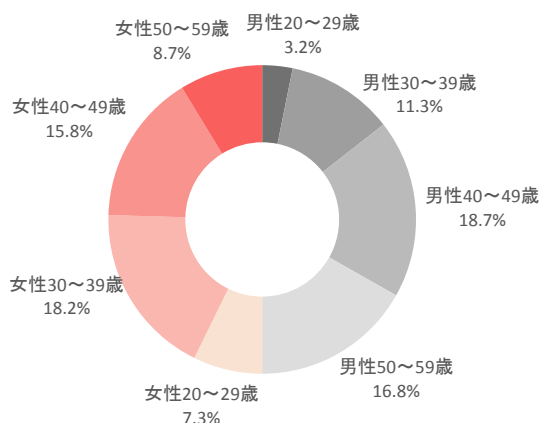
## 調査結果詳細

### ■調査概要

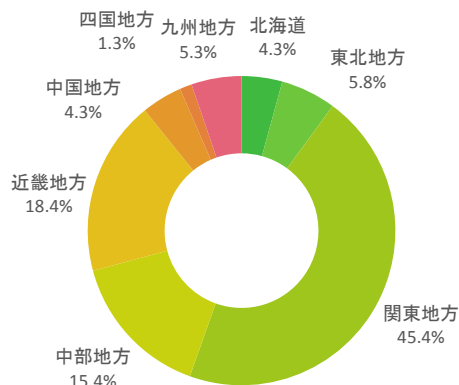
- ・調査方法 : インターネットリサーチ
- ・調査地域 : 全国
- ・調査対象 : 20～59 歳のタブレット端末を利用している男女 ※調査会社が保有する調査パネル
- ・有効回答数 : 900 サンプル
- ・調査日時 : 2013 年 3 月 8 日～3 月 11 日
- ・割付条件 : タブレットの 3 画面サイズ(7 インチ/7.7～7.9 インチ/9～10.1 インチ)と性別で均等割り付けを行った  
※各画面サイズの主なタブレット  
7 インチ:Nexus 7、Kindle Fire など  
7.7～7.9 インチ:iPad mini など  
9～10.1 インチ:iPad、Xperia Tablet S シリーズ、ARROWS Tab など

### ■回答者属性

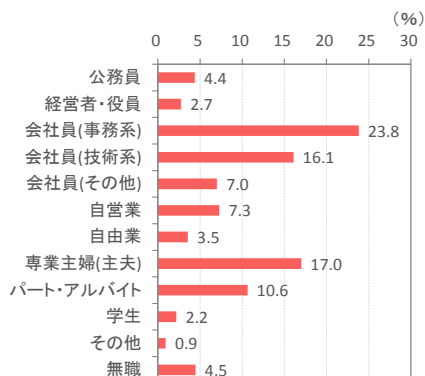
#### ・性年代 (n=900)



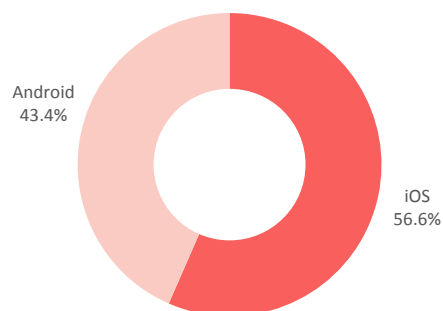
#### ・居住地域 (n=900)



#### ・職業 (n=900)



#### ・タブレットの OS (n=900)

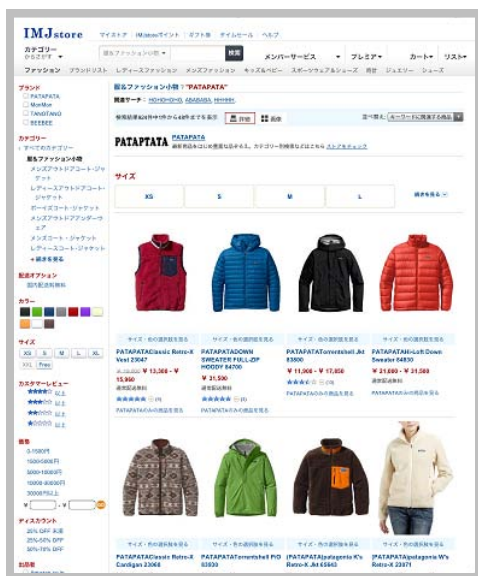


## 【PC サイトとスマートフォンサイトの比較調査】

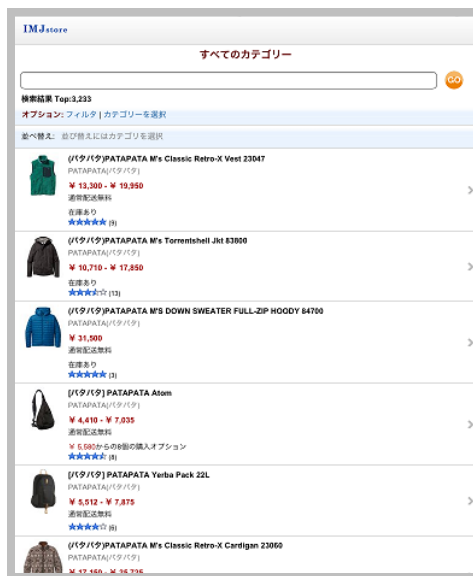
ユーザーを無作為に 2 つのグループに分け実際に各タブレット(7インチ、7.7~7.9 インチ、9~10.1 インチ)から以下の PC サイト(PC-1 または PC-2)およびスマートフォンサイト(SP-1 または SP-2) にそれぞれアクセスし、質問に回答していただきました。

### グループ 1 のユーザーが閲覧したサイト

#### 【PC-1】 PC サイト



#### 【SP-1】 スマートフォンサイト



### グループ 2 のユーザーが閲覧したサイト

#### 【PC-2】 PC サイト



#### 【SP-2】 スマートフォンサイト



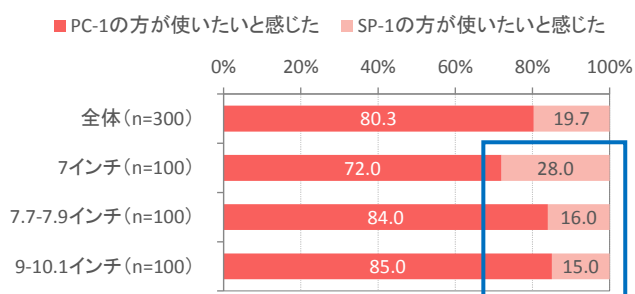
## ■7 インチタブレットユーザーの最大 34%がスマートフォンサイトを支持

各タブレットで PC サイトとスマートフォンサイトを閲覧していただき、「どちらのサイトを使いたいと感じたか」を尋ねた結果、その多くが PC サイトを好む傾向が見られました。ただし、インチ別で見ると、7インチユーザーにおいては、最大 34%がスマートフォンサイトを使いたいと回答しており、9～10.1 インチユーザーと比べると 17 ポイントも差が出るようになりました。

図 1 PC サイト(PC-1,PC-2)とスマートフォンサイト(SP-1,SP-2)の比較(単一回答)

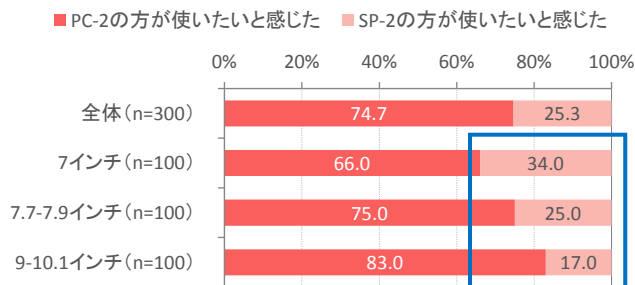
【それぞれ n=300】

### グループ 1



PC サイトが好まれる傾向があるものの、  
インチが小さくなるほどスマートフォンサイト  
が好まれる傾向がある。

### グループ 2



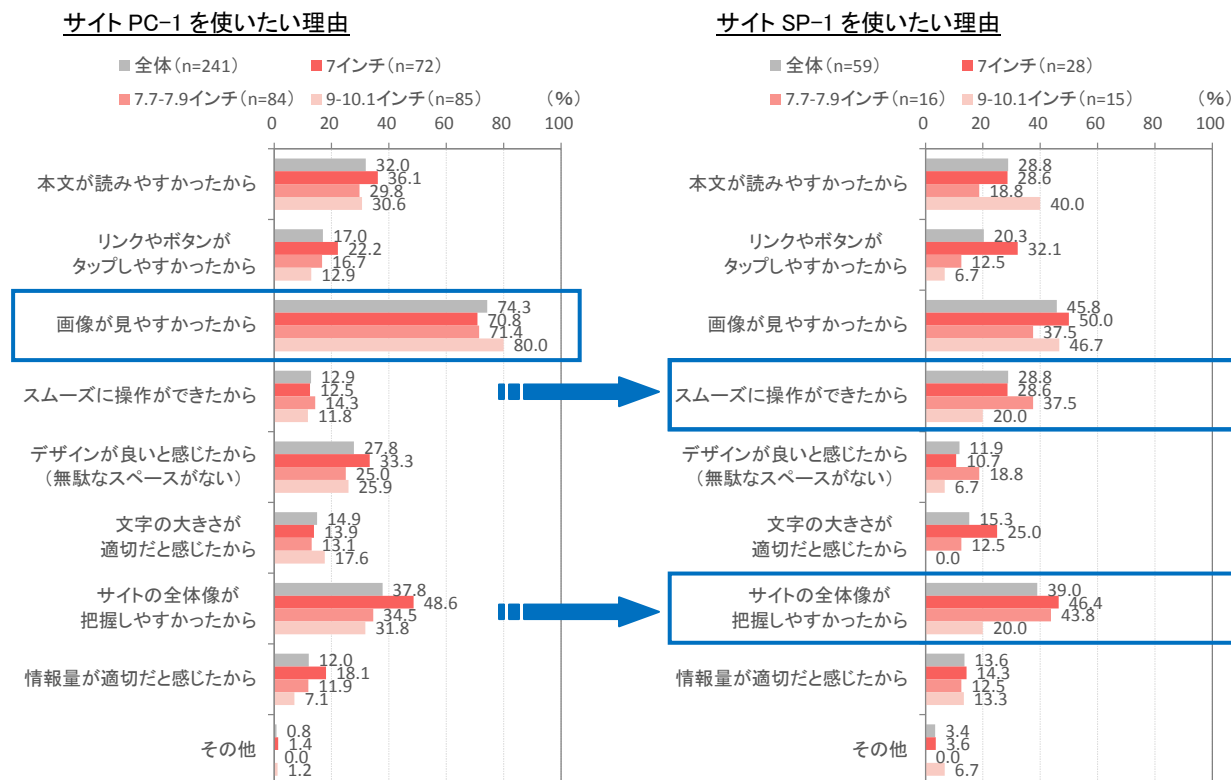
## ■PC サイトを好む理由は「画像が見やすかったから」が約 7 割

PC サイトを使いたいと感じる理由を尋ねたところ、「画像が見やすかったから」が、【PC-1】では 74%、【PC-2】では 61%と最も多く、「画像が見やすい」ことがサイトの支持に大きな影響を与えていると推測できます。

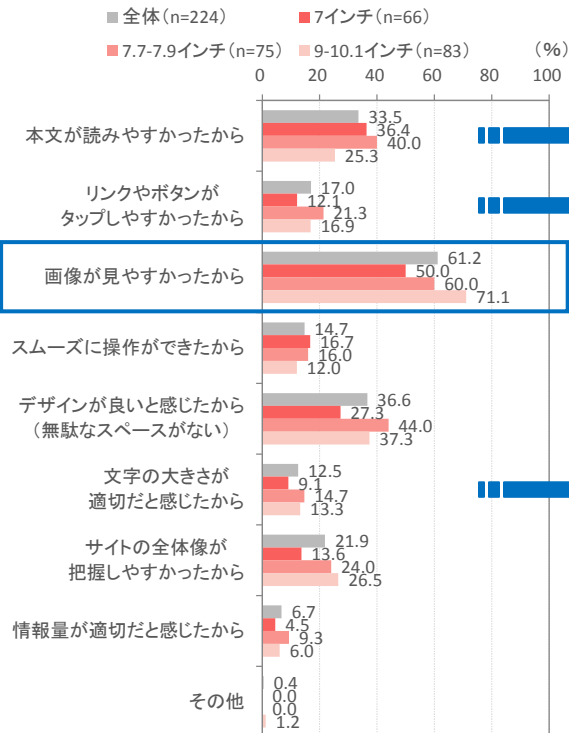
一方で、スマートフォンサイトを支持する理由をPCサイトと比較してみると、【SP-1】では「スムーズに操作できたから」(29%)、「サイト全体が把握しやすかったから」(39%)が【PC-1】よりも高く、【SP-2】では「本文が読みやすかった」が 42%、「リンクやボタンがタップしやすかった」が 42%、「文字の大きさが適切だと感じた」が 29%と【PC-2】よりも高くなっており、これらの点はタブレットユーザーが PC サイトを閲覧することを想定した際に、ユーザビリティ上配慮したほうがよいポイントと推察されます。

また、インチ別に見ると、7 インチユーザーは、特に文字の大きさと本文の読みやすさの点において、スマートフォンサイトへの支持率が高い傾向にあるため、7 インチサイズ向けに PC サイトを提供する際には、文字の大きさと読みやすさに問題がないかを検証、あるいはスマートフォンサイトを表示させるなどの配慮が求められます。

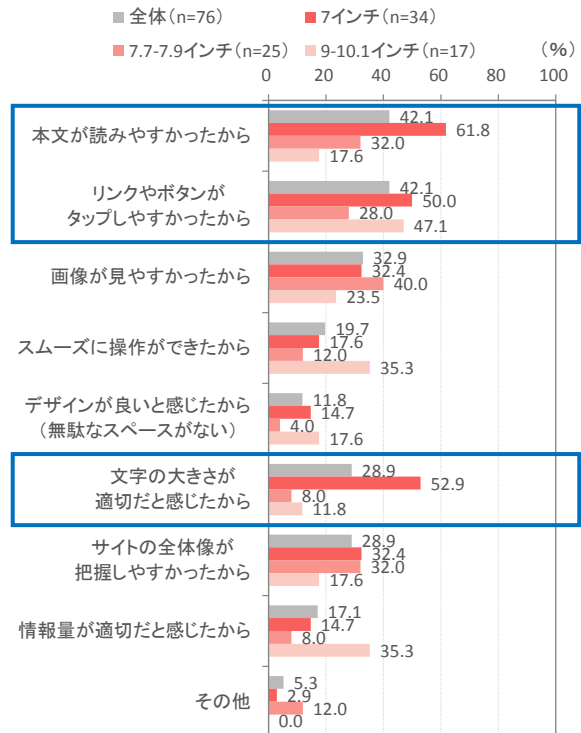
図2 PC サイト(PC-1,PC-2)とスマートフォンサイト(SP-1,SP-2)の評価理由(複数回答)



## サイト PC-2 を使いたい理由



## サイト SP-2 を使いたい理由



## ■7 インチユーザーの 70%以上は縦持ちで Web サイトを閲覧する

図 1 のアンケートに答えていただく際のタブレット端末の持ち方を尋ねた結果、7 インチユーザーの 75%、7.7~7.9 インチユーザーの 68%がタブレット端末を縦に持って Web サイトを閲覧する結果となり、インチ数が小さくなるほど縦持ちで Web サイトを閲覧するユーザーの比率が高くなる傾向が見られました。

また、縦持ちで Web サイトを閲覧するユーザーの方が、横向きで閲覧するユーザーに比べ、よりスマートフォンサイトを好むという結果も得られました。

図 3 インチ別閲覧時のタブレットの向き(単一回答)

【それぞれ n=300】

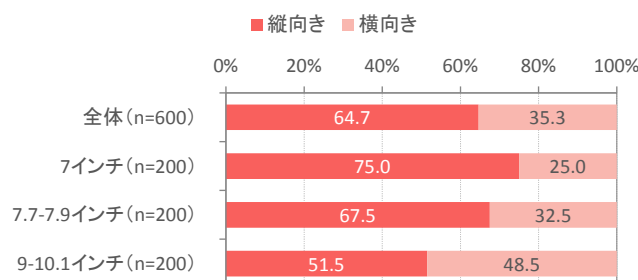
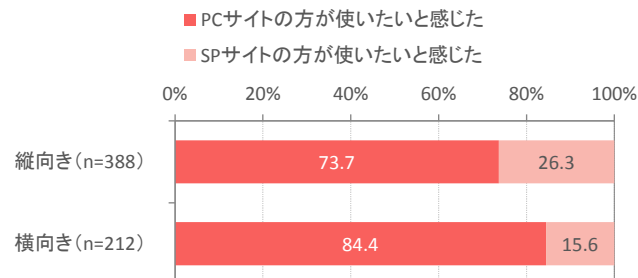


図 4 タブレットの向き別 PC サイトとスマートフォンサイトの比較(単一回答)

【それぞれ n=300】





## 【フォントサイズとコンテンツ表示エリアサイズの違いによる印象評価】

ユーザーを無作為に3つのグループに分け、タブレット端末(7インチ、7.7~7.9インチ、9~10.1インチ)で以下のフォントサイズとコンテンツの表示エリアサイズ(下図青枠部分)が異なる9種類のサイトにアクセスしていただき、質問に回答していただきました。

### グループ1のユーザーが閲覧したサイト

サイト A-1(12px 650px)



サイト B-1(14px 650px)



サイト C-1(16px 650px)



### グループ2のユーザーが閲覧したサイト

サイト A-2(12px 550px)



サイト B-2(14px 550px)



サイト C-2(16px 550px)



### グループ3のユーザーが閲覧したサイト

サイト A-3(12px 450px)



サイト B-3(14px 450px)



サイト C-3(16px 450px)



※括弧内はフォントサイズ、コンテンツ表示エリアサイズ



## ■タブレットユーザーが読みやすいと感じるフォントサイズは 16px

タブレットユーザーにフォントサイズとコンテンツの表示エリアサイズが異なる 9 種類のページを閲覧していただいたところ、サイト C-2(フォントサイズ 16px、コンテンツ表示エリアサイズ 550px)において「拡大しないで読んだ」ユーザーが 67%となり、最も多い結果となりました。

また「最も使いたいと思ったサイト」を尋ねた結果、年代別に見ると 9～10.1 インチユーザーの 20～39 歳ではフォントサイズ 14px、40～59 歳では 16px の支持が多く、一方、7 インチユーザー、7.7～7.9 インチユーザーは年代に関係なく 16px が最も支持される結果になりました。

※PC サイトの一般的な本文フォントサイズは 12px～14px 程度。

図 5 サイト内の文章を読む際に拡大したか否か(単一回答)

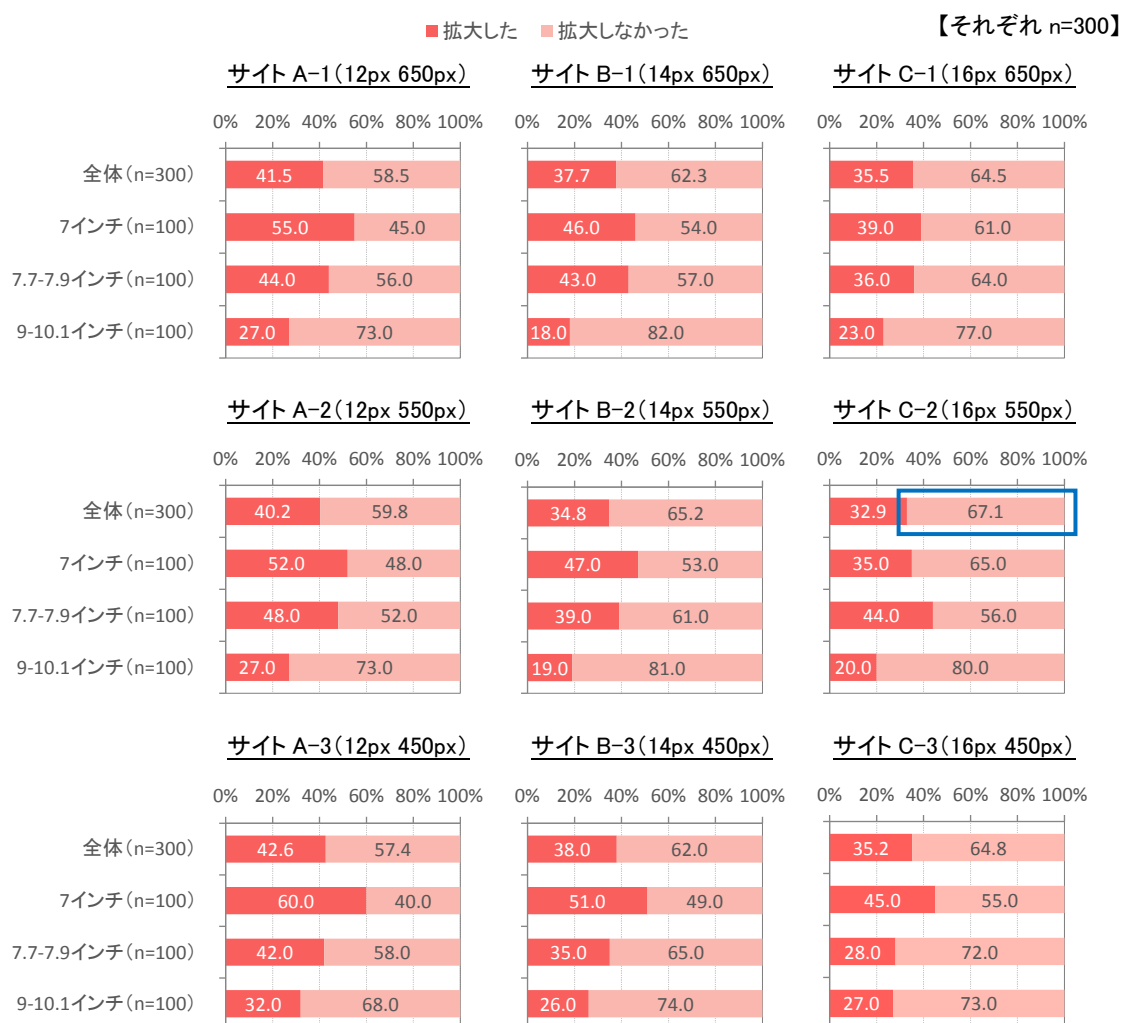


図 5 年代別最も使いたいと思ったサイト(単一回答)

【それぞれ n=300】



9～10.1 インチユーザーの 20 歳～39 歳は  
14px、40 歳～59 歳は 16px を好む傾向。  
また 7 インチユーザーには年代に関係なく  
16px が最も好まれた。

## ■9～10.1 インチのタブレットユーザーは、縦持ち、横持ちに関係なく拡大しないで文章を読む

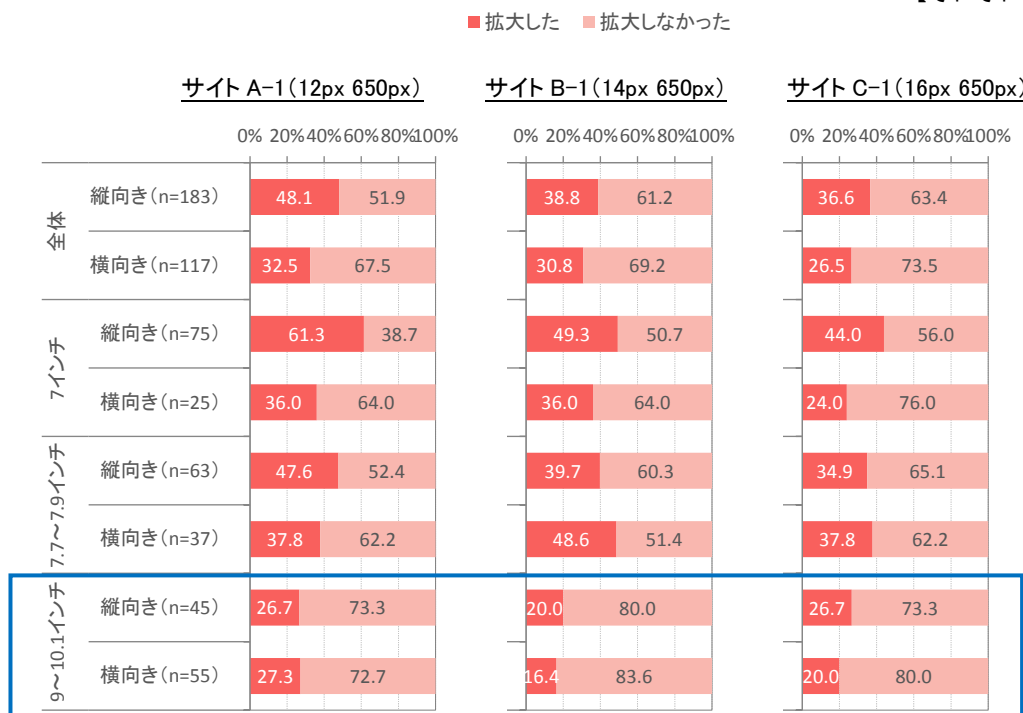
7 インチユーザー、7.7～7.9 インチユーザーは、横持ちで文字を読むと、縦持ちの場合よりも拡大しないユーザーが多くなる傾向が見られました。

また、9～10.1 インチのタブレットユーザーは、コンテンツエリアが 650px、550px のサイトにおいては、縦持ち、横持ちに関係なく、拡大せずに閲覧しているユーザーが多い一方で、コンテンツの表示エリアが 450px のサイトでは、横持ちの拡大率が上がる傾向が見られました。

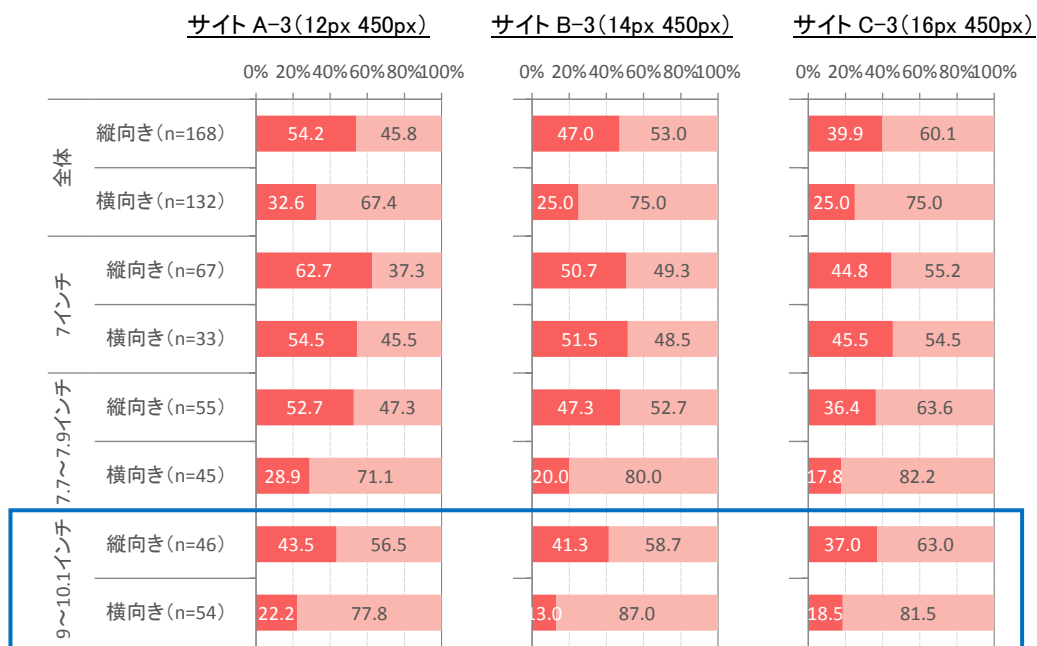
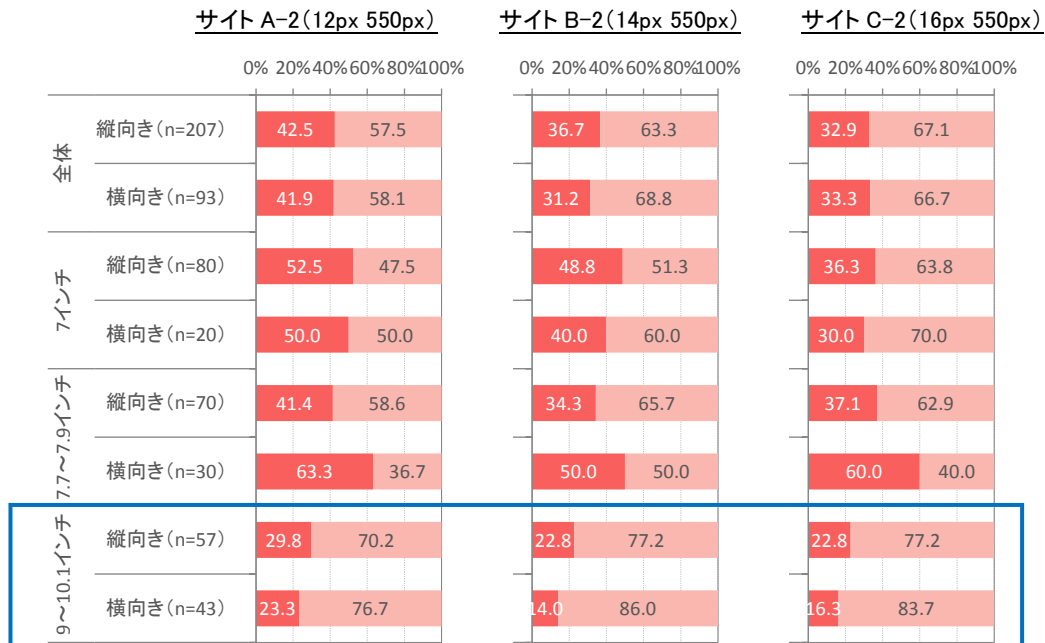
これは、横持ちで画面幅が広くなるとコンテンツ以外のエリアも大きくなり、視界に入ってしまう読みにくいいため、拡大操作でコンテンツだけを表示させてから文章を読んでいるユーザーが増えると推察できます。

図 6 タブレットの向き別に拡大したか否か(単一回答)

【それぞれ n=300】



■ 拡大した ■ 拡大しなかった

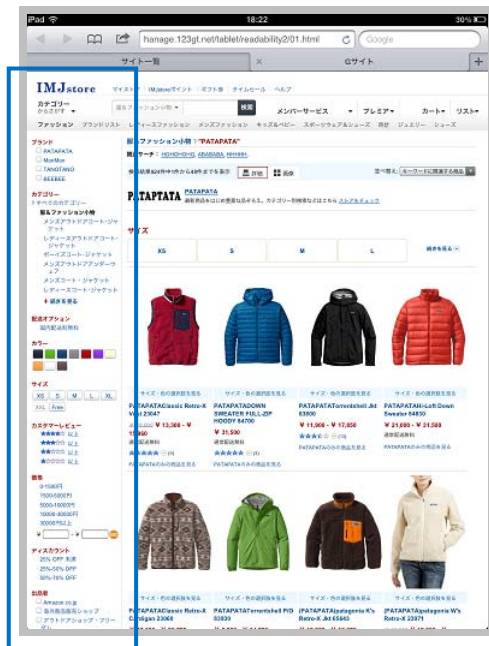


## 【サイドメニューのフォントサイズの違いによる印象評価】

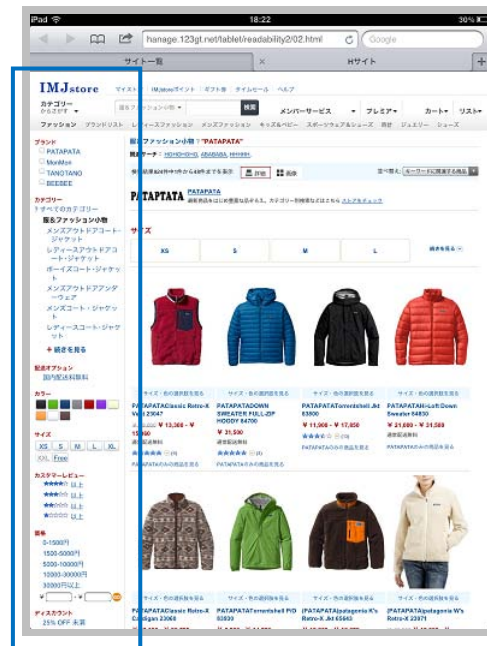
ユーザーにタブレット端末で以下のサイトにアクセスし、左側のメニュー（下図青枠部分）の中から任意のリンクをタップしてもらい、質問に回答していただきました。

※3 サイトとも行の高さ(line-height)は 1.4 を指定。

サイト D (フォント 12px)



サイト E (フォント 14px)



サイト F (フォント 16px)



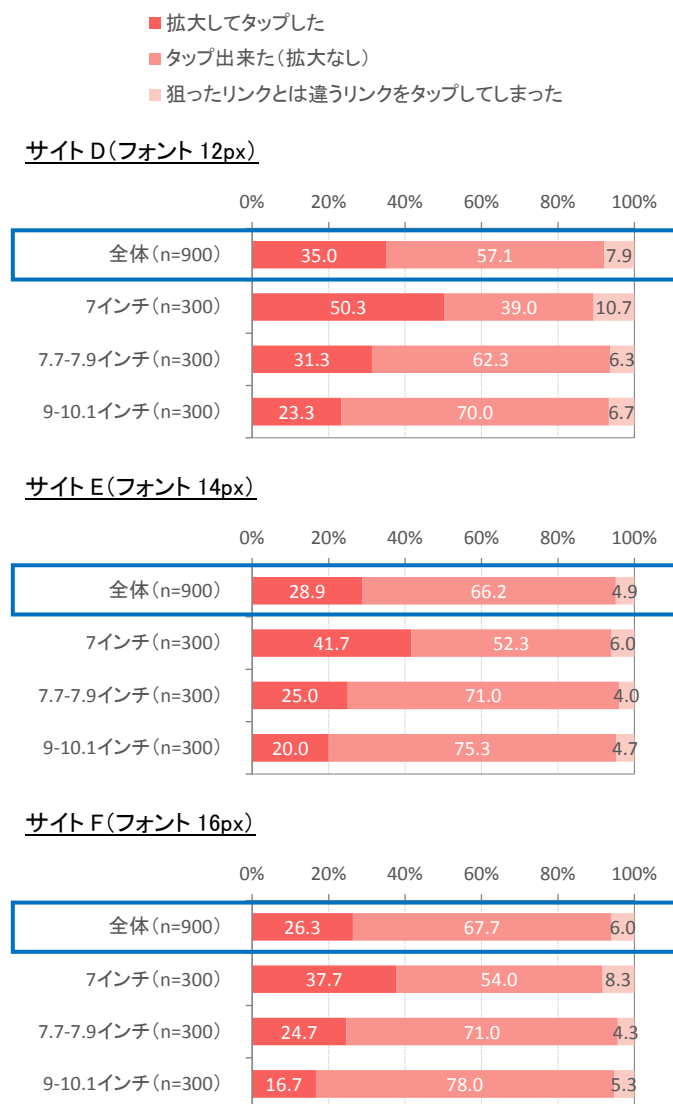
## ■7 インチタブレットユーザーはタップミスと拡大してタップする割合が多い

フォントが異なるサイト D、E、F でサイドメニューをタップしてもらった結果「拡大しないでタップ出来た」との回答が多かったのは、最もフォントが大きいサイト F(フォントサイズ 16px)となりました。

インチ別にみると 7 インチユーザーは、拡大したユーザー、タップミスをしたユーザーの比率が最も高く、サイト D(フォントサイズ 12px)においては 6 割以上が拡大するか、タップミスをしているという結果が得られました。PC 向けにデザインされたサイトメニューを提供する際には、7 インチ向けに配慮されたフォントサイズになっているかどうかを検証のポイントになると言えます。

図 7 リンクをタップできたか否か(単一回答)

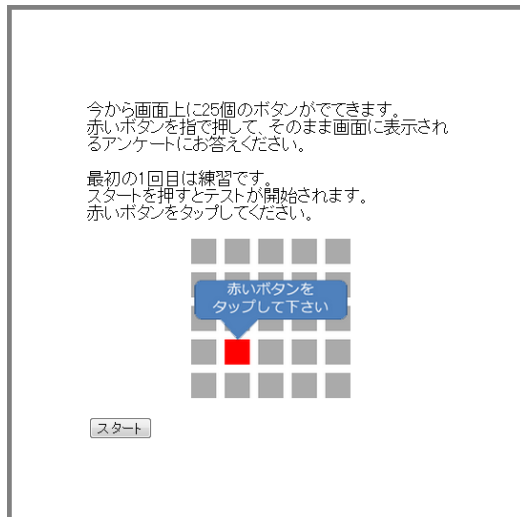
【n=900】



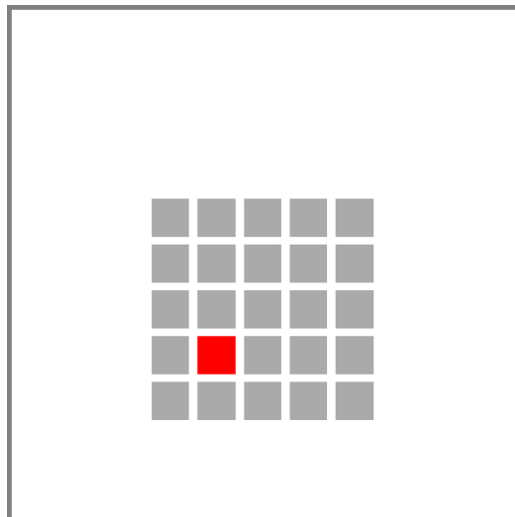
## 【ボタンサイズ別のタップミス発生率と押しにくさの印象評価】

ユーザーにタブレット端末で以下のサイトにアクセスしていただき、画面に表示される25個並んだボタンのうち、赤いボタンを押下してもらい、その直後、ボタンの押しやすさの印象を回答してもらいました。ボタンの形状は正方形で、サイズは12px～48pxまでの10パターンを用意し、その内の5パターンをランダムに表示して操作してもらいました。

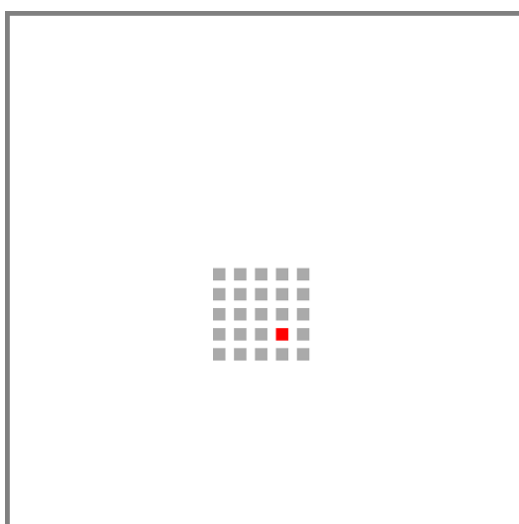
説明画面



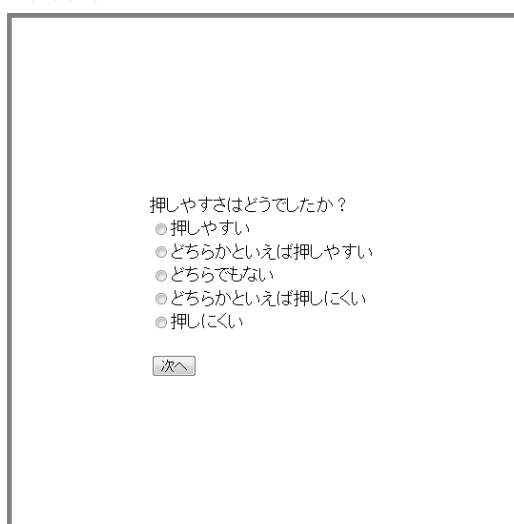
テスト画面 例1



テスト画面 例2



印象評価画面





## ■タブレットユーザーに最適なボタンサイズは縦横 32px 以上

ボタンサイズが異なるボタンを押下した後にボタンの印象について回答してもらった結果、サイズが 28px (button28) 以下のボタンでは「どちらかといえば押しにくい」、「押しにくい」と答えたユーザーが 10%を超え、20px (button20) 以下では半数以上が押しにくいと感じることがわかりました。

また実際のミスタップの発生率を調査した結果、サイズ 24px (button24) 以下のボタンはミスタップ発生率が 10%を超える結果となりました。インチ別で見ると、ミスタップ発生率が 10%を超えるボタンは 7 インチユーザーでは 24px 以下、7.7~7.9 インチユーザーでは 20px 以下、9~10.1 インチユーザーでは 16px 以下となりました。

これらの結果から、サイトにおける重要なボタンに関しては、タブレットユーザーを考慮して縦横 28px ないしは 32px 以上の十分なゆとりをもったボタンサイズが適切であると推察できます。

図 8 サイズ別のボタンの押しやすさの印象(単一回答)

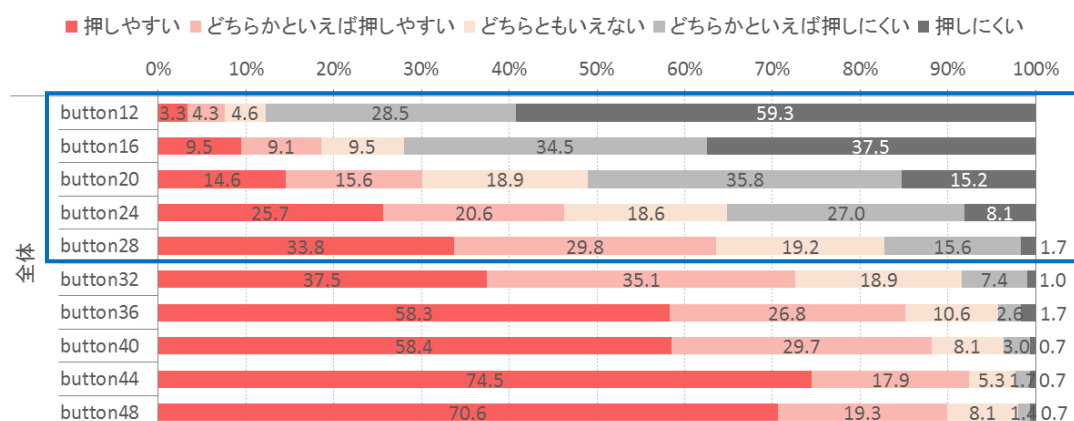
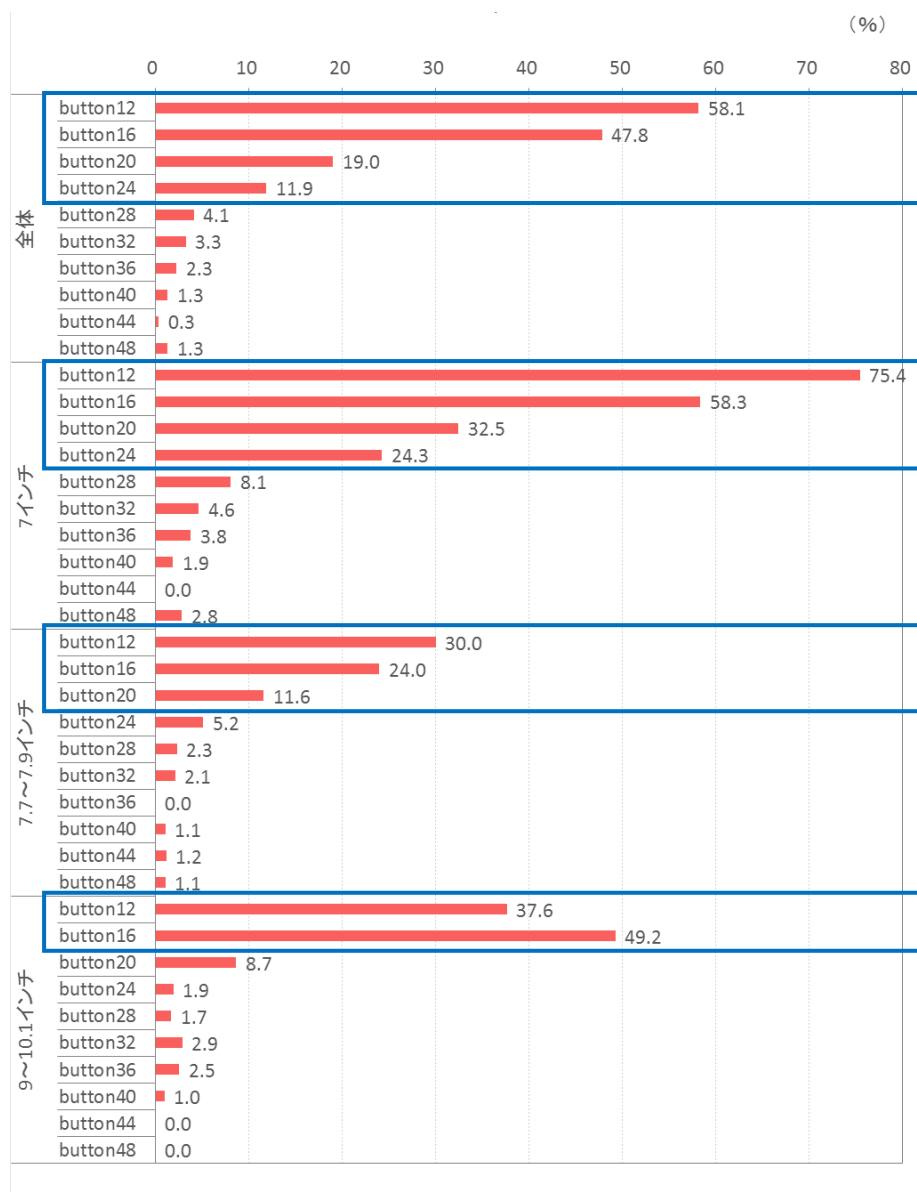


図 9 サイズ別のボタンのミスタップ発生率(単一回答)



## 株式会社アイ・エム・ジェイについて (<http://www.imjp.co.jp/>)

インターネット領域に軸足をおき、Web 及びモバイルインテグレーション事業における豊富な知見・実績を強みに、スマートフォンを含むマルチデバイス対応、更には戦略策定・集客・分析 (Web データ解析・効果検証等) まで様々なソリューションをワンストップで提供することで、顧客のデジタルマーケティング活動における ROI (投資対効果) 最適化を実現いたします。

※ 文中に記載されている会社名、商品名は各社の商標または、登録商標です。

※ 掲載されている情報は発表日現在の情報です。検索日と異なる可能性がございますのであらかじめご了承ください。

※ 画面写真データ等ご用意いたしております。お気軽にお問い合わせください。

## お問い合わせ先

---

### 本調査に関するお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ

R&D室 Research Unit 担当: 嶋田

TEL: 03-6415-4311

### 報道機関からのお問合せ先

株式会社アイ・エム・ジェイ

ブランド・コミュニケーション室 広報グループ

TEL: 03-6415-4257 E-mail: [irpr@imjp.co.jp](mailto:irpr@imjp.co.jp)